

審判講習会 参加報告書

平成29年 8月20日

報告者 山田 佳奈

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	U25 YOC2017
参加者 (報告者)	山田 佳奈 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成29年 8月11日(金) から 平成29年 8月13日(日)
会 場	上尾スポーツ総合センター、上尾総合運動公園体育館
講 師	宇田川隆生氏、平育雄氏、吉田正治氏、上田篤拓氏、平原勇次氏、山崎人志氏、加藤誉樹氏、安西郷史氏、佐藤誠氏、須黒祥子氏、前田喜庸氏、小澤勤氏、増渕泰久氏
参加者	北海道(1)、秋田県(1)、岩手県(1)、宮城県(1)、福島県(1)、山梨県(1)、栃木県(1)、埼玉県(2)、東京都(2)、神奈川県(1)、石川県(1)、長野県(1)、愛知県(2)、静岡県(1)、奈良県(1)、滋賀県(1)、京都府(1)、大阪府(1)、広島県(1)、岡山県(1)、徳島県(1)、愛媛県(2)、長崎県(1)、佐賀県(1)、熊本県(1)、鹿児島県(1) 男性21名、女性9名 計30名
報告① レ 講義 □ 実技講習 □ ゲーム (該当に レ)	レ講 義 講師 上田 篤拓 氏 テーマ『FIBA新レギュレーション、3POメカニクス』 ■講習内容 及び ミーティング内容 『FIBA新レギュレーション』 ・FIBA資格は35歳まで。しかし世界では29歳で取得→日本でも早いうちからの育成が必要。 『3POメカニクス』 ・2POと3POは別物。どちらが良い悪いというわけではないが、メカニクスのチャンネルをきちんと切り替える必要がある ・リードはセプレイに先行し、45度の角度を保ちつつアウトサイドインで見る。 ・ボールサイド2を意識、ミドルレーンに入ったならクローズダウン(ただし、クイックドライブ・クイックショットはローテーションしない。ミドルラインを越えていないのならば戻る)→リードのローテーションが大事になる。 ・テンポよくスムーズに。 ・センターはコート上にサイドラインと並行に位置する。動きに stay ではなく、play に stay をする。 ・LCCの位置取りはいいが、LTTになってはダメ。 ・トレイルもアウトサイドインで見る。 ・pick the paint ⇒T→Cにいくときアクティブになるものに視野をあてる

<p>レ実技講習 講師 全講師</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>『フロアトレーニング』三人一組でR、U1、U2を回る (③は時間により一つの役割のみ)</p> <p>① トスアップ 試合開始からどこのポジションに誰がつくのか、トスアップされたら誰がどこに行くのか</p> <p>② ローテーション リードはどのタイミングでクローズダウンからローテーションを開始するか、トレイルからセンターに行く・センターがトレイルに行くタイミング</p> <p>③ 2分間ゲーム (実践) 実際のゲームでローテーションを行う</p>	<p>レ実技講習 講師 全講師</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>『フロアトレーニング』三人一組でR、U1、U2を回る (③は時間により一つの役割のみ)</p> <p>① トスアップ 試合開始からどこのポジションに誰がつくのか、トスアップされたら誰がどこに行くのか</p> <p>② ローテーション リードはどのタイミングでクローズダウンからローテーションを開始するか、トレイルからセンターに行く・センターがトレイルに行くタイミング</p> <p>③ 2分間ゲーム (実践) 実際のゲームでローテーションを行う</p>
<p>レ講義 講師 宇田川 貴生 氏 テーマ『ガイドライン』</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>・ガイドライン=判定の基準になるもの。何を根拠にしたのか説明責任がある。 →そのためにはメカニクスの理解は重要である。</p> <p>・RSBQが崩れた場合は影響があるとみなすが、影響のないものは取り上げない。しかし、チープファウルとハンドチェックとは区別をすること。</p> <p>・ハンドチェックはオンボールのプレイに起こる。そのときに判定していく必要がある。</p> <p>・次のプレイを予測するためにもバスケットボール技術の理解が必要。</p> <p>・倒れるケースを増やさないようにする。明らかにオフENSEの責任ではない場合はディフェンスファウル。</p> <p>・プロテクトシューターはプッシングファウル。しかし、オフENSEが足を広げるなどシリンドーを越える場合があるので見極めを。</p> <p>・肘を使うプレイは危険なので故意があるなしに関わらずUFの判定を。</p>	<p>レ講義 講師 宇田川 貴生 氏 テーマ『ガイドライン』</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>・ガイドライン=判定の基準になるもの。何を根拠にしたのか説明責任がある。 →そのためにはメカニクスの理解は重要である。</p> <p>・RSBQが崩れた場合は影響があるとみなすが、影響のないものは取り上げない。しかし、チープファウルとハンドチェックとは区別をすること。</p> <p>・ハンドチェックはオンボールのプレイに起こる。そのときに判定していく必要がある。</p> <p>・次のプレイを予測するためにもバスケットボール技術の理解が必要。</p> <p>・倒れるケースを増やさないようにする。明らかにオフENSEの責任ではない場合はディフェンスファウル。</p> <p>・プロテクトシューターはプッシングファウル。しかし、オフENSEが足を広げるなどシリンドーを越える場合があるので見極めを。</p> <p>・肘を使うプレイは危険なので故意があるなしに関わらずUFの判定を。</p>
<p>レ講義 講師 須黒 祥子 氏 テーマ『女性審判オリエンテーション』</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>女性審判員を対象に須黒氏より講義を開いていただいた。</p> <p>・日本での男女の上級審判員の割合はほぼ同じである。</p> <p>・女性であるメリット、デメリットはある。それはコート内外に関わらずにある。しかしどちらでもしっかり理解をする必要がある。</p> <p>・自分を強く見せるために→行動に気をつける、フィジカルをつける等</p> <p>・女子の課題→自立心が薄く、自分で解決策を言わない</p> <p>・女子は走り方と止まり方が下手くそ。トレーニングを積む必要がある。</p> <p>・合理的に考えられる人=決断力がある人</p>	<p>レ講義 講師 須黒 祥子 氏 テーマ『女性審判オリエンテーション』</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>女性審判員を対象に須黒氏より講義を開いていただいた。</p> <p>・日本での男女の上級審判員の割合はほぼ同じである。</p> <p>・女性であるメリット、デメリットはある。それはコート内外に関わらずにある。しかしどちらでもしっかり理解をする必要がある。</p> <p>・自分を強く見せるために→行動に気をつける、フィジカルをつける等</p> <p>・女子の課題→自立心が薄く、自分で解決策を言わない</p> <p>・女子は走り方と止まり方が下手くそ。トレーニングを積む必要がある。</p> <p>・合理的に考えられる人=決断力がある人</p>

<p>報告⑤ □ 講義 □ 実技講習 レ ゲーム (該当に レ)</p>	<p>レゲーム (男子) 朝霞V S 所沢西、小山台V S 大宮東 田中沙紀 (愛知県)、山田将樹 (京都府) 二反田建翔 (広島県)、山田佳奈 講師 加藤誉樹氏 (東京都S級、国際審判員) ■講習内容 及び ミーティング内容 4人1組で第1、第4ピリオドのハーフゲームを2本、1試合分を4人でローテーションしながら行う。 ・とにかく voice を使うこと。声で選手に伝える、先導する。 ・とにかくローテーションを試みる。 ・トレイルからセンター側のプレイを見ることは気持ち悪いなという感覚をもつこと。 ・フルコートでプレッシャーがあるときは、センターはどこで協力するのかを考えなくては。 全体的にローテーションのテンポが良く、3人でしっかり見ることができた。しかし、センターの位置取りが高いポジションにあるので、プレイを下から見たりフロスステップを用いたりする工夫が必要であるとアドバイスをいただいた。</p>
<p>報告⑥ □ 講義 □ 実技講習 レ ゲーム (該当に レ)</p>	<p>レゲーム (男子) 小山台V S 都立駒場、小山台V S 都立足立 二反田建翔 (広島県)、山田佳奈、林佑亮 (鹿児島県)、慶野芽以 (栃木県) 講師 加藤誉樹氏 (東京都S級、国際審判員) ■講習内容 及び ミーティング内容 ・インパクト・ザ・コール。どの判定をとられてもおかしくはないケースだったし、自分の目の前から始まったプレイだから、必ず判定をすること。 ・センターからドライブに対して good call があった→1ゲーム目の反省からプレイの見方を工夫できていた。 4人が少しずつ3POに慣れてきてスムーズにローテーションが行えるようになった。その中でもリードでそのタイミングが絶妙な方がいたり、積極的な方がいたり、いい場面が多くみられたと言っていた。私自身はローテーション時の姿勢が良いと言っていた。</p>
<p>報告⑦ レ 講義 □ 実技講習 □ ゲーム (該当に レ)</p>	<p>レ講 義 講師 加藤誉樹氏、上田篤拓氏 テーマ『プレゼンテーション、3×3、映像研修』 ■講習内容 及び ミーティング内容 —プレゼンテーション ・必ず身に着けなくてはならないもの。F I B Aでも強調される。 ・strong (強く)、decisive (決断力)、approachable (親しみやすく) ・Give a non-message that you are able and ready to make decisions. (判定するための準備ができていることを言葉でないもので伝える) ・use authorized signal (決められたシグナルを使うこと) —3×3 ・東京五輪正式種目になった。5人制とレフリー資格は異なる。日本にはF I B A 3×3レフリーは二人。 —映像研修 ・何を具体的にしていくか。どれだけこだわるか、追求するかを見つける。 例) なぜならなかったのか? →どう動いていたらプレイが見えていたのかの追求をする ・自分の癖を探していけないところは直す</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・3人がきちんと自分の言葉で話す。言葉にする。仲間での情報共有が必要 ・プレイヤーのリアクションはヒントになる→プレイを戻って見て対策を練る
<p>報告⑧</p> <p><input type="checkbox"/> 講義</p> <p><input type="checkbox"/> 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>レゲーム (男子) 小山台V S 松山、大宮東V S 都立駒場</p> <p>相澤慎之介 (秋田県)、山本恵一 (山梨県)、二反田建翔 (広島県)、山田佳奈</p> <p>講師 平原勇次氏 (東京都S級、国際審判員)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム前に班員全員でメカニクスはもちろん、今日は判定を意識して臨むことを班講師から事前に声をかけていただき、4人でゲーム前にもう一度確認して臨んだ。 ・プレイヤーのトラベリングに関してはどうだったか。ミートの仕方はどうか、どの時点でトラベリングが成立するのか、もっと理解が必要。 ・センターから良いジャッジができていた→プレイにアジャストできていた。 ・リードではプレイに吸い込まれている→癖だから直さなくてはならない。 <p>トラベリングに関して、流れで吹いていないか、しっかり確認しなくてはならない。私たちレフリーがプレイヤーに正しいルールを教えてあげることも必要だし、もっとプレイヤーズファーストのゲームにレフリーがしなくてはいけないとアドバイスをいただいた。</p>
<p>所感</p>	<p>今回のYOCでは3POメカニクスについてということで、私自身あまり経験したことがないことを学べる機会をいただき、思い切って挑むことができました。トップリーグや世界で活躍されている講師の方々から直接たくさんのご指導をいただけたこと。今後のレフリー活動をしていくうえでの大切な財産になりました。講義の中で「今日明日でできないことは今、この瞬間から始なくてはならない」という言葉が印象に残りました。英語や体力面のトレーニング等、準備を怠らないようにすることの大切さをトップレフリーから改めて学びました。また、同年代で上級を目指す新たな仲間に出会い、刺激を受けたことは言うまでもありません。お互いに上級になって大きな舞台で多くの仲間と再会したいと強く思いました。</p> <p>最後になりましたが、この講習会を開催・運営して頂きましたJBAの皆様、開催県上級審判員の皆様、ご指導して下さった講師の皆様、そして、この貴重な機会を与えて下さった堀内審判長をはじめとする愛媛・四国の審判員の皆様に深く感謝致します。上級になるためには力不足が否めませんが、与えていただいた割当の一つ一つを大切にジャッジしていきたいと思えます。また、えひめ国体まで50日を切りました。今回は3POでしたが、レポートや姿勢など共通する部分では今回の経験を生かし、コート上に立てるよう更なる努力をしていきたいと思えます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。本当にありがとうございました。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。

審判講習会 参加報告書

平成 29 年 8 月 17 日

報告者 菅野 嵩大

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	2017 年度 U25 YOUNG OFFICIALS CAMP
参加者 (報告者)	菅野 嵩大 (所属カテゴリー) クラブ連盟
期 日	平成 29 年 8 月 11 日 (金) から 平成 29 年 8 月 13 日 (日)
会 場	上尾スポーツ総合センター／上尾運動公園総合体育館
講 師	宇田川貴生氏(JBA 審判部長) 平育雄氏(審判委員会副委員長) 吉田正治氏(審判委員会テクニカル部会長) 上田篤拓氏(FIBA レフェリーインストラクター) 平原勇次氏(S 級審判員／国際審判員) 山崎人志氏(審判委員会トップリーグ／強化部会) 加藤誉樹氏(S 級審判員／国際審判員) 安西郷史氏(S 級審判員) 佐藤誠氏(S 級審判員) 須黒祥子氏(S 級審判員／国際審判員) 前田善庸氏(S 級審判員) 小澤勤(S 級審判員／国際審判員) 増渕泰久(S 級審判員／国際審判員)
講義①	講義① 講師 上田 篤拓 氏 ・ F I B A 新レギュレーションについて ・ 3 P O メカニクスについて ■講習内容 ・ F I B A 新レギュレーションについて 1 : F I B A レフェリーになれる人数は日本の中で限られている。そして 35 歳までしかその資格を取ることができない。世界では 29 歳を目安にこの資格を取得している人が多いので、日本でも若い世代での F I B A レフェリーの育成を目指している。 ・ 3 P O メカニクスについて 1 : まず初めに、3 P O と 2 P O は別物であるということについて理解する。 どちらが良い悪いではなくて全くの別物である。 2 : 3 P O での判定は、パターン・アングル・ケースによって変化するので、プライマリーを意識することは大切だが、初めはエリアにとらわれすぎないようにする。 3 : リードの動きについて ・ ミドルラインを基準にして、ローテーションの判断を行う。 ・ ミドルライン付近にボールがある場合は、クローズダウンポジションに移動して、ボールサイドの場合はボールラインまで開いてボールを視野に入れておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション時にはスキャン・ザ・ペイントを行い。ペイントエリアで行われているプレイに目を当てておく。ペイントエリアで何もない、誰もいない場合はボールサイドのプレイヤーに目を当てておく。その時も45度を維持したまま移動を行う。 ・ボールサイドでクイックショット・クイックドライブが起こった時は、ローテーションは行わない。ローテーション中にそのプレイが起こった場合は、ミドルラインを越えていればローテーションを完成させ、越えていなければバックペダルで戻る。 ・ローテーションの移動はシャープに歩いて行う。 <p>4：トレイル・センターの動きについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、二人ともがトレイルのポジションを取ることはNGである。二人がセンターのポジションになることはある。 ・リードがローテーションを起こした際は、トレイルレフェリーがセンターポジションに来たことと、ボールサイドでのインサイドプレイ等が起こっていないことを確認して、トレイルへ移動する。
<p>実技講習</p>	<p>実技講習 フロアトレーニング 講師 全講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トスアップ、リードの動きについて <p>■講習内容</p> <p>1：トスアップを行い、リード・センター・トレイルの位置への移動について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トスアップを行った人は必ずトレイルへ移動する。 <p>2：ローテーションの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リード主体で行う。ミドルライン付近にボールが移動した際にクローズダウンポジションにしっかり移動をしてから、ローテーションを行う。 ・センターが、リードの動きに合わせてオートマチックに移動しないよう注意する。 <p>3：2分間の練習ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のプレイの中でローテーションを行う。 ・レポートなどの際にしっかり声を使って、英語で番号を伝える。
<p>講義②</p>	<p>講義② 講師 宇田川 貴生 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインについて <p>■講習内容</p> <p>1：ガイドラインとは、判定の基準になるものであり、判定の説明をするためにも使用されるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック or チャージについては、リーガルガーディングポジションがとれているかどうかを基準に判定を行う。どちらに責任があるかはそこで判断する。 ・ハンドチェックについては、ガイドラインに照らし合わせてオートマチックに判定を行う。 ・プロテクト・シューターが適用するシチュエーションについては、プッシングのコールで判定を行う。オフenseが足を広げるなどして、シリンダーから出ているケースもあるため、その見極めをしっかりと行う。 ・肘を使ったプレイは、重大な怪我につながる可能性があるため故意でなくても思い切ってUFで判定を行う。 ・トラベリングについては、足の遅れ・ズレ・踏みかえの用語に当てはめてシンプルに判

	定を行う。
ゲーム①	<p>ゲーム 審判 藤林比登美 竹村百花 岸本祥也 菅野嵩大 (一人3ピリオド担当) 主任 佐藤 誠 氏</p> <p>元石川 v s 上尾鷹の台 都立駒場 v s 上尾鷹の台 (女子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ・ゲーム・カンファレンス <p>昨日の講義でやったメカニクスをしっかりと意識して、間違ってもいいのでリードが思い切ってローテーションを行うことの確認と、レポートの後のローテーションの確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任、パートナーからのアドバイス <p>センターサイドの高い位置でプレイがあった際には、オールコート・ハーフコートどちらでも、判定が出来る位置までプレイを見に行く必要がある</p> <p>トレイルの位置が高いと、トレイルのプライマリーから始まったドライブについての判定が出来ないケースが多くなる。プライマリーのエリアの意識だけでなく、プライマリーアングルの意識を持つことが大切。そのためにも、アウトサイドインで45度を保つための位置取りを行う。</p> <p>リードの際に、ボールミラーで3Pライン付近まで開いてボールを視野に入れることを意識する。</p> <p>今回はメカニクスが中心ではあるが、ガイドラインの説明でもあったように、判定のための材料を探ることが大切である。そのためにも、良い位置取りをしてプレイを長く見ることが大切である。</p>
ゲーム②	<p>ゲーム 審判 徳丸昂 池田美紗子 岸本祥也 菅野嵩大 (一人3ピリオド担当) 主任 佐藤 誠 氏</p> <p>元石川 v s 上尾鷹の台 元石川 v s 都立駒場 (女子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ・ゲーム・カンファレンス <p>1ゲーム目同様、メカニクスのことについて主にローテーションのことについて確認を行い、さらにオールコートでプレスがあった時のセンターやリードの協力の仕方についての確認も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任、パートナーからのアドバイス <p>ボールサイドのトレイル・センターのアングルの取り方が、エンドラインと体が平行になってしまっているときがあるので、45度のアングルのプレイをとらせるようにする。</p> <p>リードがローテーションを行った時に、ミドルポストにボールがあるときなどは、センターはその捕まえていたプレイを手放さずに、プレイが終わるまでセンターポジションでステイすることを意識する。</p> <p>1ゲーム目より、フルコートの際の協力は良くなっているが、速攻時に3Pが起こった時のラインの確認の協力が薄かったため、リードも3 or 2の判定に対して協力する、</p> <p>全体的にトラベリングの判定が出来ていなかった。トラベリングが起こった後のファールを取り上げてしまうと、ディフェンスが明らかに不利になってしまうので、ガイドラインとプレイを当てはめるようにしていく。</p>

<p>講義③</p>	<p>講義③ 講師 加藤 誉樹 氏 上田 篤拓 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについて ・3×3レフェリーについて ・映像分析について <p>■講習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについて <p>1：プレゼンテーションはおまけではなく、メカニクス・判定と同じくらい大切なものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シグナル、責任、声を使うこと、体の大きさなど、プレゼンテーションの中にも様々な要素がある。 <p>2：ゲームをコントロールするために、責任者であるという態度をしっかりと見せる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判とはサービスプロバイダーであるため、謙虚にサービス精神を忘れてはいけない。ゲームは、選手・コーチ・お客様のためにあるということも忘れてはならない。 ・判定する準備が出来ていることを言葉にせず、表情や姿勢で伝えていく必要がある。 <p>3：バスケのレフリーのイメージ像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強くあること、決断力があること、接しやすいことである。 <p>4：決まっているシグナルを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が今何をしているのか自分が知っている状態を作ることが大切である。また、自分がファールを吹いたらそれはファールである。ミスしたと思っても演じることも必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ・3×3レフェリーについて <ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピックで正式に決まった競技である。基本的にはバスケットではあるが細かいルールなどが多少違っている。日本にも3×3のFIBAレフェリーがいて、5対5のライセンスとはまた違ったものである。 <ul style="list-style-type: none"> ・映像分析について <p>1：映像を見るときのポイントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り簡単なキーワードで意識して、課題を見つけること。 ・何を次に具体的にどうしていくかを考え、仮説と具体的な対策を考える。 ・仲間と声に出して基本的な事柄から確認を行っていくことや、プレイの見方についても説明し共有することが大切。 ・自分の動きの癖や、自分の動きの意図を映像で振り返る。 ・大きい出来事があった場合には、その前にその原因となるプレイがあったかどうか探していく。 ・映像を処理する力を身に付けて、映像を使用するストレスを取り除く。
<p>ゲーム③</p>	<p>ゲーム 審判 安田陽大 竹村百花 岸本祥也 菅野嵩大 (一人3ピリオド担当) 主任 佐藤 誠 氏</p> <p>都立足立 v s 春日部 所沢西 v s 朝霞 (男子)</p> <p>■講習内容・ミーティング内容</p>

	<p>・プレ・ゲーム・カンファレンス</p> <p>メカニクスについては、もちろんであるが、昨日の反省でもあったようにトラベリングの判定など、ガイドラインに沿った判定が出来るようにプレイに長く目を当てていけるようにする、そのために、メカニクスの徹底を行うことを確認した。</p> <p>・主任・パートナーからのアドバイス</p> <p>速攻時のブロック or チャージの判定については、リードかセンターが自分のサイドで起こったものについて判定をする。その際の判定の基準は、リーガルガーディングポジションがとれているかどうかということを確認しておくことが大切になる。</p> <p>ローポストやミドルポストで、ミドル側にドライブやターンがあった時は、リードレフェリーは1歩開いて良いアングルでプレイを見る位置取りをする。</p> <p>センターサイドの高い位置で、ダブルチーム等が起こった際には、必要に応じてはダッシュでプレイを確認しに行く必要がある。</p> <p>試合の中で、急なインターセプトなどが起こった際にローテーションのミスが起きてしまうことはあるので、その時はお互いに合図を出し合って教え合う。</p> <p>ラスト1プレイの時間の管理については基本的にはオポジットサイドのレフェリーが行い、1人だけが笛を鳴らすようにする。</p>
<p>所感</p>	<p>今回の講習会では、本当にたくさんの講師の方々からたくさんの事を教えていただき、すごく勉強になりました。3POのメカニクスについて中心に学ばせていただき、普段の審判活動では得ることの出来ない知識を知ることが出来ました。さらには、ガイドラインや映像分析などの細かい部分についても指導していただき、自分自身が今後審判活動を行っていく上で大切なことをたくさん知ることができました。</p> <p>また、全国にいる同年代の審判員の方々との交流もすることができて、お互いに切磋琢磨していける環境のありがたさについても気づくことが出来ました。</p> <p>最後になりましたが、今回このような講習会に参加させていただく機会を与えていただきましたことに大変感謝致します。ついに『愛顔つなぐえひめ国体』の開催まで2か月を切り、様々な準備が進んでいる中で、自分自身もさらにレベルアップしていかなければならないと感じております。今回の講習会で学んだことや経験を積ませていただいたことを糧として、国体までにさらに成長していけるように、今後も努力していきたいと思えます。これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。